

(様式6-2)

## 研究成果概要

所属学校名 松阪市立徳和小学校  
職・氏名 教諭 浜井 洋子

- 1 事業の名称 一般内地留学（外国人児童生徒教育）
- 2 留学先の名称 大阪教育大学
- 3 研究主題 外国人児童生徒教育に関する教科指導型日本語指導と授業づくり
- 4 研究成果の概要

本校では、「日本語指導が必要な外国人児童」が多く在籍し、近年、日本語を全く話せないフィリピン国籍の児童の編入学が急増している。2014年度は、20人の途中編入があり、2015年度はそれを上回るペースで、編入児童が本校にやってくる（5月1日現在で11）。彼らに、日本語で学習する力をつけ、在籍学級での教科学習ができる確かな学力をつけていくことは、本校の課題のひとつである。また、学習に必要な日本語の力が十分でなく、日常の学習内容の理解に困難さを抱えている、日本語を母語とする日本人児童に対しても、「教科指導型日本語指導」を行い「日本語で学ぶ力」を育てていく必要がある。

「教科指導型日本語指導」について正しい知識を得て、学校での指導に活かしていくことができるように、これまで取り組んできたJSLカリキュラムの算数科の授業実践だけでなく、理科や社会科学、生活科、体育科など、他教科での教科指導型日本語指導の授業実践を参観してきた。これらの指導に欠かせない「日本語の目標」のたて方や種類、本時の「教科の目標」を達成するために教師が繰り返し授業の中で使用する日本語表現である「ターゲットセンテンス」について、実際の授業を参観し、指導案や授業記録を基にした事後検討にも参加し、よりはっきりとしたイメージを持つことができた。

在籍学級を多く参観することで、それぞれの学校の教員の意識や研修への取り組み、よりわかりやすい授業にしてくれたための教師の様々な支援を学ぶことができた。また、子どもの学習意欲を高める効果的な教材教具やワークシートを積極的に授業に取り入れたり、子どもをやる気にさせる掲示が各学級や校内の様々な場所にあつたりと、学習環境もよく整備されていた。学習内容と結びついた掲示を考え、学習意欲を高める手だての一つとしていきたいと感じた。

「教科指導型日本語指導」に取り組んでいく上で大切なことは、教師集団が共通認識を持ち、同じ方向にむかって研修を進めていくことである。各学級の外国人児童の指導についての悩みや効果的な方法等を交流して、全校で考えていくことや、それらから得たことを学級全体の指導にも活かしていくことも大切であることが確認できた。

外国人児童が在籍学級での授業で意欲的に学習に取り組めるように、国際教室での指導も工夫していく必要がある。学級担任や教科担当者と連携をとりながら、効果的な学習方法を考えていきたい。